

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 「ものづくり」を通じた教育を念頭におき、全ての教育活動において以下のことを実践し、地域に信頼され、生徒が誇りをもって卒業できる学校をめざす。
1. 生徒一人ひとりの総合的な人間力の充実が図られており、大きく変化する社会の中で自立して力強く生きる生徒が育っている。
  2. 自信を持ち、自ら変革を起こせる生徒、自ら新しいことに粘り強く果敢にチャレンジする生徒が育っている。
  3. 実践的な教育内容の充実を図ることにより、各種検定試験合格、各種資格取得、各種コンテスト及び各種競技会に積極的に取り組む生徒が育っている。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力を育成する学校

- (1) 基礎・基本の学力を定着させ、より専門性の高い技術・技能の習得をめざす。
  - ア 公開授業や研究授業を積極的に推進するとともに、授業アンケートを活用し授業改善に組織的に取り組む。
  - イ 少人数授業の展開や実習内容の充実を図り「わかる授業」「考える授業」を展開する。
  - ウ 信頼関係に基づいた指導を充実させ、個々の生徒の実態に応じた指導を実践し、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成する。

\*生徒向け学校教育自己診断の「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」（平成 26 年度 60%）を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度に 70%を達成する。

\*生徒向け学校教育自己診断の「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」（平成 26 年度 65%）を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度に 75%を達成する。
- (2) 各種検定合格や資格取得、コンテスト応募を積極的に指導する。
 

\*卒業までに 3 つ以上の検定試験合格・資格取得をめざす。

## 2 豊かな心をはぐくむ学校

- (1) 生徒との信頼関係を基本とした毅然とした生活指導を行い、問題行動の事前防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。
  - ア 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時のマナー指導を徹底する。

\*平成 28 年度には遅刻生徒数を平成 26 年度（8336 人）の 30%減を目標とする。

\*平成 28 年度には再履修生徒数、転退学生徒数共に平成 26 年度（再履修生徒数 52 人、転退学者数 72 人）の 30%減を目標とする。
- (2) 人権教育を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。
  - ア 発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。

\*生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」（平成 26 年度 60%）を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度に 70%を達成する。
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
  - ア 教育相談体制の充実に向け、分掌・学年・系・教科の連携を深める。

\*生徒向け学校教育自己診断の「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」（平成 26 年度 44%）を毎年 5%以上引き上げ、平成 28 年度に 55%を達成する。

  - イ キャリア教育の充実を努め、インターンシップの参加者数（平成 26 年度 39 人）を毎年 50 人以上達成する。

\*生徒向け学校教育自己診断の「将来の生き方について考える機会がある」（平成 26 年度 69%）を毎年 5%以上引き上げ、平成 28 年度に 80%を達成する。

  - ウ 就職率 100%を維持するとともに、公務員や大学進学を希望する生徒の指導の充実を図る。また、離職率調査を実施し、進路指導に活かすとともに 3 年以内の離職率 30%未満をめざす。

## 3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒会活動、部活動を活性化させる。
  - ア 学校説明会や体験入学等の学校行事や学年行事などに積極的に生徒がかかわるよう指導する。
  - イ 部活動等の活性化を組織的に支援する。

\*部活動の参加率（平成 26 年度 49%）を毎年 5%以上増加させ、平成 28 年度に 60%以上にする。
- (2) 公開授業を実施するなど P T A 活動や学校協議会等の一層の充実を図る。
  - ア 保護者向け学校教育自己診断の「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」（平成 26 年度 60%）を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度に 70%を達成する。
  - イ 保護者向け学校教育自己診断の「学校では、PTA 活動は活発である」（平成 26 年度 76%）を 80%以上とし、維持していく。
  - ウ 保護者向け学校教育自己診断の「学校は、教育情報について、提供の努力をしている」（平成 26 年度 77%）を 80%以上とし、維持していく。
- (3) 生徒に対する防災教育を推進し、防災マニュアルの更なる見直しを進めていく。
  - ア 生徒向け学校教育自己診断の「学校で、事件・地震や火災などがおこった場合、どう行動したらよいか、知らされている」（平成 26 年度 66%）を平成 28 年度に 75%以上とする。
- (4) 各種のイベントに積極的に生徒が関わるように指導する。
  - ア 大阪産業教育フェア
  - イ 西淀川ものづくりまつり
  - ウ 地元商店街等と連携したイベント
  - エ ホタルプロジェクト

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析【平成 27 年 12 月実施分】	学校協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任以外に気軽に相談できる教員の存在を感じている生徒が増加しており、教育相談も含め丁寧な指導が進みつつあることが伺える。</li> <li>・学校行事が楽しいと感じている生徒はそれほど多くはなく、今後の学校行事の計画立案に工夫すべき点がないか検証する必要がある。</li> <li>・火災や地震及び津波が起こった時の対応について知らされていると感じている生徒の肯定率は昨年度より上昇しており、防災への取組が浸透してきつつある。</li> <li>・保護者の学校行事への参加率や P T A 活動については、広報の方法も含めて改善すべき点があり、今後の課題と言える。</li> <li>・学校の教育活動の P D C A サイクルが機能していないと感じている教員が多い。それぞれの教育活動の検証をして、次年度に活かすことができる体制を構築する必要がある。</li> </ul>	<p>【第 1 回協議会】平成 27 年 5 月 26 日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導は継続して根気強く指導し、更なる改善を図ってほしい。</li> <li>・授業中の生徒指導を今まで以上にしっかりやってほしい。</li> <li>・教員向けの A E D 講習会だけではなく、生徒向けに開催できればもっと良い。</li> </ul> <p>【第 2 回協議会】平成 27 年 10 月 7 日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問についても先生方の参加率を上げ、学校全体で取り組んでほしい。</li> <li>・保護者の学校に対する信頼感が増すような取組みを推進してほしい。</li> <li>・生徒指導の取組みをさらに推進してほしい。</li> </ul> <p>【第 3 回協議会】平成 28 年 2 月 3 日実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導に関しては、昨年度より 20%以上減少している。更に工夫した取組みを推進してほしい。</li> <li>・中学校への広報活動は、H P の活用や在校生の中学校訪問が効果的ではないか。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力を育成する学校</p>	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の定着 ア 授業アンケート、公開授業や研究授業、教員研修の取り組み イ 「わかる授業」「考える授業」を展開するための教員研修の実施。 ウ コミュニケーション力の育成を図るとともに、プレゼンテーション力を培う。 (2) 資格取得等を積極的に推進するとともに、各種検定試験やコンテストへの積極的な参加を図る。</p>	<p>ア 公開授業を実施する。 校内向けの公開授業週間を設け、自分の専門以外の授業を見学し授業の改善に取り組む。 校外向けの公開授業日を設け、保護者、中学校教員等に授業を公開し授業改善に取り組む。 イ 教員研修の実施 フォローアップ研修及び初任者研修を活用し、授業力の改善を図る。 ウ 課題研究発表大会の実施 機械系、電気系、建築都市工学系、工業デザイン系の各系で課題研究発表会を実施する。各発表会には下級生に聞かせる機会を設ける。 エ 各系等で取得可能な資格を積極的かつ計画的に取得させる。</p>	<p>ア 一人1回以上の他教科の授業見学(座学)を実施する。 イ 府教育センター指導主事の指導により公開授業を実施し、授業アンケート等を実施し授業改善を図る。 ウ 各系で発表会を実施。 発表会に下級生を参加させ、目的意識の向上を図るとともに、学校全体の取組みとして多くの人の前で発表させる。 エ 前年度を上回る資格試験合格者数、コンテスト参加者数を出す。</p>	<p>ア 授業公開週間を設けるとともに、校外向けの公開授業日を年間2回実施し、保護者等の意見を踏まえて授業改善に取り組むことができた。(◎) イ フォローアップ研修、初任者研修においては全員が指導主事の助言により授業力の向上に努めた。初任者研修については、研究授業を2回実施し、他教科の教員の参加者も増え、学校全体の取組であるという認識を深めることができた。(◎) ウ 各系で課題研究の発表会を実施。全教員に対して日程も公表し、3つの系では下級生も参加する等、学校全体としての取組が進んだ。(△) エ 各教科、系で前年度を上回る取り組みを推進し、リスニング英語検定の受験者250%増、測量士補2名合格、技能検定のフライス盤3級5名と旋盤3級2名の合格、電気工事1種14名、2種49名の合格等、過去最高の成果を収めることができた。(◎)</p>
<p>2 豊かな心をはぐくむ学校</p>	<p>(1) 信頼関係を基本とした生徒指導の取り組み ア 挨拶指導・遅刻防止指導・校内美化指導・通学時のマナー指導を徹底する。 (2) 発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。 (3) キャリア教育の充実に努める (4) 教育相談体制の充実</p>	<p>ア 遅刻防止指導の徹底 遅刻者に対する特別指導(遅刻5回ごとに特別指導)を徹底する。 ・自転車運転のマナー指導の徹底 登下校時の交通安全指導を徹底する。 イ 学年団ごとの人権HRの計画を人権推進委員会と連携しながら実施する。 ウ インターンシップ、企業連携実習、地域連携事業の充実を図る。 エ 教育相談体制の充実と教育相談室の整備を図る。 オ 公務員試験や大学進学をめざす生徒に対する講習等の充実を図る。</p>	<p>ア 遅刻生徒数(平成26年度8336人)、再履修生徒数(平成26年度52人)、転退学生徒数(平成26年度72人)15%減を目標とする。通学時の自転車事故ゼロを目標とする。 イ 生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(平成26年度60%)を5%引き上げる。 ウ インターンシップの参加者数を50人以上とする。生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」(平成26年度69%)を75%にする。 エ 生徒向け学校教育自己診断の「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」(平成26年度60%)を65%にする。</p>	<p>ア 遅刻生徒数は前年度比28%減。再履修生徒数は前年度比40%減、転退学生徒数は前年度比24%増。(△) イ 生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」については平成27年度63%で、前年度比3%増。(○) ウ インターンシップ参加者数は昨年同様100人を超えており、地域の企業との連携も進んできている。生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」については、平成27年度72.7%で昨年比3.7%増。(○) エ 生徒向け学校教育自己診断の「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」については平成27年度61.3%で、前年度比1.3%増。(○) オ 公務員試験のための講習をAC系で計画的に実施し、6名の合格者を輩出することができた。(◎)</p>
<p>3 安全安心で魅力ある学校</p>	<p>(1) 生徒活動の活性化 ア 学校行事、学年行事などに積極的に生徒がかかわるよう支援する。 イ 部活動の活性化を組織的に支援する。 (2) 公開授業を実施するなどPTA活動や学校協議会等の一層の充実を図る。 (3) 防災教育の推進するために、避難訓練や研修を通して防災の意識を高める。 (4) 外部イベント等への積極的な参加。</p>	<p>ア 学校行事等を生徒が主体的に参加する取り組みとする。 イ 部活動の加入率、活動状況の向上を図る ウ 公開授業を実施し、生徒の学校生活について広く保護者に伝える。 エ 防災研修等を通して意識を高め、地震や火災を想定した避難訓練を実施。 オ 各種大会に積極的に参加する。 ・各種ロボット大会に参加する。 ・各種イベントに参加する。 ・各種の外部発表に参加する。</p>	<p>ア 学校説明会、体験入学等の行事に関わる生徒数を増やす。 イ 部活動の加入率を55%に向上させる(平成26年度49%)。 ウ 保護者向け学校教育自己診断の「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」(平成26年度60%)を5%引き上げる。 保護者向け学校教育自己診断の「学校は、教育情報について、提供の努力をしている」(平成26年度77%)を80%に引き上げる。 エ 生徒向け学校教育自己診断の「学校で、事件・地震や火災等がおこった場合、どう行動したらよいか知らされている」(平成26年度66%)を70%に引き上げる。 オ 各種イベント等の外部発表の機会を増やす。</p>	<p>ア 体験入学においては、生徒が主体的に中学生に指導する機会を設定し、中学生の進路選択に大きな影響を与えた。(○) イ 平成27年度の部活動の加入率は40%で、昨年度比9%の減。(△) ウ 年に2回の公開授業を実施することができた。保護者向け学校教育自己診断の「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」について平成27年度は47.8%で昨年度比12.2%減。(△) 保護者向け学校教育自己診断の「学校は、教育情報について、提供の努力をしている」について平成27年度は76%で昨年度比1%減。(△) エ 地震や火災を想定した避難訓練を実施することができた。生徒向け学校教育自己診断の「学校で、事件・地震や火災等がおこった場合、どう行動したらよいか知らされている」について平成27年度は73.5%で昨年度比7.5%増。(○) オ 大阪府産業教育フェア、西淀川ものづくりまつり、大正ものづくりフェスタ等へのイベントやロボット相撲大会へ積極的に参加することができた。(○)</p>